

# ラオスの重要な食用魚パケオの資源保全に資する生態的情報

Biological information contributing to resource conservation of the important Laotian food fish *Pa keo*

インドシナ半島に広く分布するパケオ(学名 *Clupeichthys aesarnensis*)はニシン科の小型魚で、主に大規模なダム湖で大量に漁獲され、乾物や発酵食品の原料となっている。近年、ラオスのナムグムダムでは、本種の需要の高まりとともに、過剰な漁獲による漁獲量の減少が強く懸念されており、資源管理の必要性が指摘されている。そこで、同ダムにおけるパケオの日齢・成長・繁殖等の生態特性を調査したところ、本種は周年産卵し、生殖腺重量指数(GSI)より、成熟体長は28-30mm(日齢>100日)と推定された。また、日齢・体長から得られるモデルより、理論的最大体長は約45mm、標本中の最大体長は59.5mmであったが、過去の最大体長(>70mm)より小さく、この個体群では乱獲による「進化的小型化」が進行している可能性が示唆された。

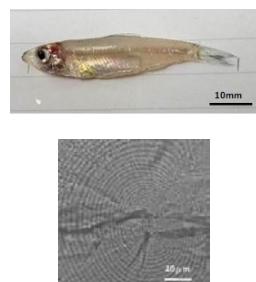


図1 パケオ成魚(体長約40mm)(上)、および耳石の日周輪(下)  
Fig. 1. Adult *Pa keo* (40 mm SL) (top) and daily increments in otolith (bottom)

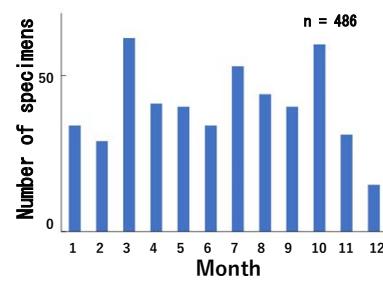


図2 パケオ個体群の孵化月分布  
Fig. 2. Hatch month distribution

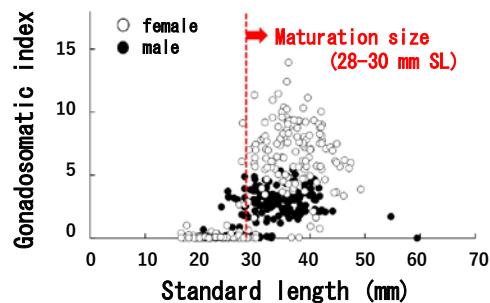


図3 パケオの体長とGSIの関係  
Fig. 3. Relationship between SL and GSI

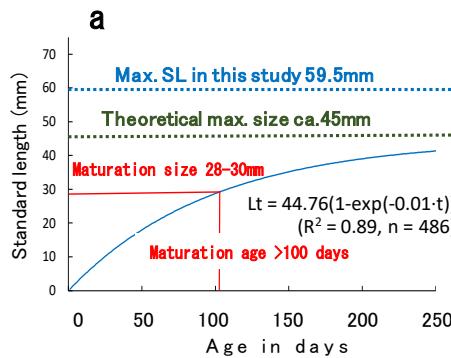


図4 パケオ個体群の成長モデル(a)と体長頻度分布(b)

Fig. 4. Growth model of *Pa keo* population (a) and size frequency distribution (b)

